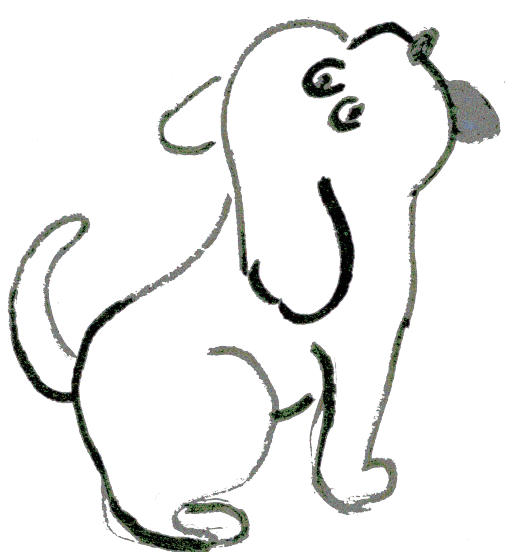


第三話

お寺の犬



むかし、お寺の犬が病気になったんだと。

苦しんで苦しんで、お寺の松の木の下で、しゃがんでいたんだと。
そこへ猫がお見舞に来たんだと。

「ニャンとした。ニャンとしたや。そんなに苦しいのかやあ」

今度は、^{ねずみ}鼠がやってきて、

「チュッとはいいか。チュッとはいいか」
って聞いたんだと。

猫が鼠を見て、追っかけはじめて、木のまわりをぐるぐる、
ぐるぐる回ったんだと。鼠は、

「チュッともいぐねえかあ」

って、聞きながら回ってんだが、犬は、なかなか返事しなかつ
たんだと。

そして、しばらくしてから、やっと返事したんだと。

「ワンずかずつ、ワンずかずつ、いいや」
って言ったんだと。

ところが、猫と鼠はいつまでも帰んねえで、木のまわりを回っ
てるもんだから、木の上にいたカラスが、ずっとそれ見てて、
目まわしてやあ、

「ガオッタ（疲れた）なあ、おれ。ガオッタなあ、おれ」
って、飛び立っていったんだとさ。